

会 議 議 事 録

1 会議名	第13次第1回長岡市廃棄物減量等推進審議会
2 開催日時	令和4年11月15日（火曜日） 午前10時から午前11時15分まで
3 開催場所	寿クリーンセンター2階会議室
4 出席者名	<p>（委員） 中村会長、林副会長、松井委員、高橋委員、小方委員、 畔上委員、田中委員、三鍋委員、白井委員、寺本委員、 松永委員、星野委員、佐野委員、皆川委員、嶋田委員、 矢澤委員、平澤委員、水島委員、酒井委員</p> <p>（事務局） 平澤環境施設課長、安達環境政策課長補佐、 児玉環境施設課長補佐、長谷川環境業務課長補佐、 吉井鳥越クリーンセンター所長、 小林環境業務課減量推進担当係長、櫻井環境業務課主査、 徳永中之島支所地域振興・市民生活課主査、 柳橋越路支所地域振興・市民生活課係長、 殖栗三島支所地域振興・市民生活課係長、 倉地山古志支所地域振興・市民生活課係長、 山吉小国支所地域振興・市民生活課係長、 相沢和島支所地域振興・市民生活課係長、 納谷寺泊支所地域振興・市民生活課係長、 土田栃尾支所市民生活課係長、 内山与板支所地域振興・市民生活課係長、 大淵川口支所地域振興・市民生活課主査</p>
5 欠席者名	（委員） 阿部委員、諸橋委員
6 議題	<p>1 議題 令和5年度ごみ収集計画（案）について</p> <p>2 報告事項</p> <p>（1）令和3年度 長岡市一般廃棄物処理実施計画と実績</p> <p>（2）事業系生ごみ処理手数料の改定（引き下げ）について</p> <p>（3）中之島新ごみ処理施設（仮称）の稼働について</p>

7 審議結果の概要	<p>1 議題の令和5年度ごみ収集計画について承認された</p> <p>2 報告事項(1)～(3)について報告がされた。</p>
8 審議の内容	
環境業務課係長	<ul style="list-style-type: none"> 資料確認
環境施設課長	<ul style="list-style-type: none"> 平澤環境施設課長あいさつ
環境業務課係長	<ul style="list-style-type: none"> 委員紹介 会長・副会長選出 会長に中村委員、副会長に林委員を選出
環境業務課課長補佐	<p>(長岡市廃棄物減量等推進審議会の概要について資料1により説明)</p>
環境業務課課長補佐	<p>(議題「令和5年度ごみ収集計画(案)」について、資料2により説明)</p>
委員	<p>黄色いごみ袋が弱すぎるのではないのでしょうか。</p>
環境業務課課長補佐	<p>燃やすごみ、燃やさないごみ、生ごみの袋を触ってもらうと触感が異なります。燃やさないごみは、金属等の固いものを入れることがあるので破れ難い低密度の袋を使用しています。燃やすごみについては、軽くて柔らかいものが多いため、高密度の薄い袋を使用するように考慮しています。袋も生産の段階で穴が開いている等の不良品については、販売店や環境業務課に連絡もらえれば交換対応させていただいております。このように考慮しておりますので、ご理解いただけますと幸いです。</p>
委員	<p>わかりました。</p>
会長	<p>私もよくパンパンに入れてしまい破れてしまうことがありますが、2つに分けるなどの対応が必要になってくると思います。</p>
委員	<p>ごみの分別について、10年前位からペットボトルとビンと缶を分けずに収集し、処理場の工程を見ると人が手で分けています。県内の状況でも、一緒に収集するところはほぼありません。分ける時に何故一緒に入れれないといけなくて、何故手作業で仕分けを行うのだらうと違和感を感じました。その経緯を知りたいです。</p>
環境業務課課長補佐	<p>一括収集をする以前は、長岡市でもコンテナを各町内会に置き、びん、缶をコンテナに入れたものを平ボディ型のトラックで収集していましたが、リサイクルプラザができ、ペットボトル収集が開始される際、収集方法の検討を行いました。分別し収集品目が増えると収集する車両も多数必要となり、車両代や人件費もかかるため費用対効果の問題がありました。びん缶ペットボトルをまとめて収集するとパッカー車に入れてもペットボトルが緩衝材になり、ビンが割れにくいということもありました。市民の皆さんが出す手間</p>

	<p>を考えた時にステーションで分別する手間・ご不便をおかけするのもしょくなくないのではということもありました。また、リサイクルプラザで作業されている方の働く場の提供として地域の福祉にも貢献できるということもあり、長岡市では現状の収集方法を行っています。</p>
委員	<p>びんとペットボトルを一緒に入れると割れないということがわかりました。</p>
会長	<p>私も、不思議に思っていました。市民に伝わっていないと思うので、お知らせした方がよいと思います。</p>
環境業務課 課長補佐	<p>ごみ情報誌やホームページなど広報手段を持っているので、機を捉えて周知を図っていきたいと思います。</p>
委員	<p>高齢化になり、長岡市の構成比で40%位が60歳以上のため、簡単に出せるから長岡市は一括収集していると周知した方がよいと思います。この市はごみの対応が悪いと思って暮らしていました。</p>
会長	<p>他にございませんでしょうか。それでは、「令和5年度ごみ収集計画（案）」について、承認いただけますでしょうか。</p> <p>（拍手）</p>
会長	<p>承認いただけましたので、議事はこれで終了します。 次に報告事項について、一括説明してもらい、最後にまとめて質疑・ご意見をお願いします。</p>
環境業務課 課長補佐	<p>（報告事項（1）令和3年度長岡市一般廃棄物処理実施計画と実績について、資料3により説明）</p>
環境施設課長	<p>（報告事項（2）事業系生ごみ処理手数料の改定（引き下げ）について及び（3）中之島新ごみ処理施設（仮称）の稼働について、資料4、パンフレットにより説明）</p>
委員	<p>長岡市の一般ごみと事業系ごみの割合はどのくらいでしょうか。 情報誌を年2回出していて、必要な税金だが相当な税金が使われていて、少しでもごみを減量するためにこの会があると思います。もう少し、積極的に市民に向けて行政当局としての提案ができないでしょうか。 引き下げの理由はわかりましたが、丁寧に事業者へ重要性を説明・PRしてほしいです。 長岡市のごみの処分について、長岡市としてのビジョンを市政だよりや情報誌で出されていると思いますが、市民はまだ十分な認識を持っていません。 高齢化により分別が大変になっており、環境業務に相談するとパトロールでよくやっていただき感謝していますが、困るのは不法投棄です。道路網がよくなったため、地元の人ではないものがいくつか出てきています。不法投棄に対する一般の方向けの指導・教育について強くアピールしていただきたいです。</p>
環境施設課長	<p>事業系と家庭系のごみの割合ですが、燃やすごみについてはほぼ同量二万</p>

	<p>数千トン出されています。生ごみに関しては、皆さんからご協力いただいて集めていますので、家庭系が八千トン、事業系が三千トン程度です。事業系生ごみのうち、特に沢山排出される食品関係の工場のごみは産業廃棄物となり、市では受け入れられないため、事業系生ごみが少ないのは仕方がないところもありますが、燃やすごみの割合から考えるとまだまだ潜在的な生ごみがあるだろうと市は考えております。</p> <p>生ごみ分別のPRについては、長岡市一般廃棄物収集運搬業許可業者が各事業所のごみを収集するので、値上げについて、市に代わりしっかり伝えていただくことをお願いしているところです。あわせて、市としても処理施設受入の受付時に値上げ時期のチラシ周知を予定しています。直接持込みをされる事業所もありますので、それらの事業所には全て文書で通知させていただき、値上げの時期、生ごみに分ければ値下げになるということも周知させていただきたいと考えています。</p> <p>ごみ情報誌での周知は、タイミング的に間に合わないかもしれませんが、ホームページでは周知させていただきますし、色々な手法で地道にPRを継続させていただき、すぐ生ごみが増えるということではなく、少しでも生ごみが増えてくれば燃やすごみが減り、リサイクル、発電に回すことが可能かと思っておりますので、そういった取組みをしていきたいと考えております。</p> <p>最終処分場につきまして、柿に新たに第3期のクローズド型屋根付き処分場が完成し、昨年11月くらいから搬入を開始しています。その前の処分場がまだ入れられる状況のため、併用しています。</p> <p>もう1か所、鳥越クリーンセンターと併設している処分場については、中之島に新たな施設ができた段階で鳥越クリーンセンターが廃止されるので、同時に処分場も廃止に向けた手続きに入り、来年度末で利用を停止する予定です。その後、安定するまで管理は続けます。</p> <p>柿の処分場は昨年から入れ始めましたが、量的にはまだ大して入っていません。15年間使える計画をしていますが、ごみ量が若干減ってきていますので、埋め立てる灰の量も減ってきており、このままいけば15年以上使えるだろうと思われまので、16、17年と少しでも長く使えるよう、今後ごみの減量化に努めてまいりたいと考えております。</p> <p>不法投棄についてですが、ご町内からご相談いただいた時にパトロールが現地に向かい確認したうえで、回収、特定できた場合は排出者に指導しています。排出防止の看板や恒常的に投棄される場所があるので、そのような場所はパトロール巡回を実施しています。しかし、被害を受けている地域の方だけに関心がとどまり、一般の方の関心が低く、なかなか変わらないということもあると思っておりますので、市政だよりでも不法投棄防止の啓発はしていますが、もう少し、皆さんに関心を持ってもらえるような啓発をしていかなければならいのご意見をいただいていたと思います。どのように実現できるかわかりませんが、模索・検討し、周知・指導に努めてまいりたいと思います。</p> <p>資料3の生ごみの水切りつまり生ごみを増やした方がよいということはいくわかります。市政出前講座という言葉をはじめて聞きました。市政出前講座は、各分野ごとに凄く種類があるのをホームページで見たが、配布される情報誌に何故出てこないのか、出前講座を知らない人が多いと思います。折角、計画と実績を出しているのなら、ぜひPRしていただきたい。</p> <p>3月の情報誌ごみ改革で出された「手前どりで食品ロスを減らそう」と出しましたが、30年以上企業で働いた経験から両方の立場で言うと、手前どりということが消費者としてやれるのか、誰でも新しいものが買いたいし、同じ値段だったら新しい方を選びます。私は、見切り品を買ってほしい、見</p>
環境業務課 課長補佐	
委員	

<p>環境業務課 課長補佐</p> <p>会長</p> <p>環境業務課係長</p> <p>環境業務課 課長補佐</p> <p>環境業務課係長</p>	<p>切り品なら鮮度対売価のバランスが取れています。見切り品になったものは廃棄になりますが、ちょっと古くても廃棄にはつながりません。「小売業の従業員は、みな見切り品を買いましょう。それがCO2削減だよ。」となっています。また、商品の置き方は業界にもよりますが、手前寄せだけではなく、左寄せなどもやっています。もっと買う側の立場に立って考えてもらえると嬉しいです。</p> <p>生ごみの市政出前講座ですが、PRについては、市政出前講座の案内の中に講座の一項目として載っている形で、ごみ情報誌等には今まで載せておりませんでした。そういった部分で参加者や開催希望も若干少ない現実があります。実際に顔を合わせて状況を説明していくことが必要だと思います。情報誌の掲載スペース上、どれをとるかということもありますが、掲載するスペースや手段について考えながら、生ごみ減量の方策の一つとしてPRを検討してまいりたいと思います。</p> <p>手前どりについては、私どももまだ不勉強なところがあり、国や県の施策を見ながらこのようなところから着手していこうとPRしたわけですが、委員がおっしゃる通り実際はどういった部分が一番実現性が高い、効果的な部分かということで、見切り品はより分かりやすく、実施しやすい部分だと思いますので、どういった形で提案できるかということもありますが、検討してまいりたいと思います。</p> <p>他にございませんでしょうか。これで、本日予定していた審議終了いたしました。貴重なご意見、活発なご審議いただき、ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。</p> <p>中村会長ありがとうございました。 予定していたものは以上になります。 最後に長谷川環境業務課長補佐から閉会のごあいさつを申し上げます。</p> <p>長谷川環境業務課長補佐あいさつ</p> <p>以上をもちまして第1回審議会を閉会させていただきます。 ありがとうございました。</p>
<p>9 会議資料</p>	<p>別添のとおり</p>